

佐藤重夫と巖島民家「写真・図面集」 (その2 元・石田家、田中家、熊田家)

河村 明植

Shigeo Sato and Itsukushima Folk House “Photos and Drawings” :
Part 2, Former Ishida family, Tanaka family, Kumada family

Meishoku KAWAMURA

巖島は本学会元会長の佐藤重夫先生(以下敬称略)の思いのたいへん深い地で、昭和40年代から昭和60年代にわたって巖島民家の調査・研究を行っている。本稿では佐藤が調査した巖島民家について、下記の「資料1～資料3」に基づいて7棟の巖島民家を3回に分けて紹介することにした。今回は2回目の報告である。

(民俗建築アーカイブ 3回の連載予定)

- ・その1 (158号) : ⑱ 岩村家(旧江上家)、江上家
- ・その2 (本号) : ⑳ 元・石田家、田中家、熊田家
- ・その3 : ㉑ 吉田家、宮豊家/倉庫

【資料】

- 1) 「巖島の民家(第2報)」(日本建築学会中国・九州支部研究報告第2号 昭和47年3月) 佐藤重夫
- 2) 民俗建築アーカイブ資料 佐藤重夫「巖島民家 写真・図面集」
- 3) 「宮島町史 特論編 建築」宮島町 平成9年6月

1. 元・石田家(滝町) (写真・図面集リスト No. 6)

【現存せず】

- ・建築年代 : 19世紀中期頃(江戸後期～明治)
 - ・建築形式 : 木造 厨子2階建、切妻造、棧瓦葺、平入
- アーカイブ資料 : 写真 26枚
(白黒 25枚、カラー1枚) (昭和46年(1971)撮影)

(1) (資料1) 「巖島の民家(第2報)」日本建築学会中国・九州研究報告第2号 昭和47年3月

佐藤重夫

(V) 『元・石田家』

滝町、大西町、中西町、中江町などは古い時代に住居が出来たものと思われ、室町時代には家並が作られていたものと考えられるが、この元石田家は内侍格の住居であったと伝えられるものである。しかし家の作り様は、他の町屋と基本的期な相違は認められず、通り庭の平入であるし、土間に沿って表から内庭に三つの室が設けられていることは全く同様である。また、おいえは屋根裏がそのまま見える室で、土間との間にももとは建具のないことも(IV)、(III)のお家とも同様で、巖島の特徴である。間口は3間半で、建ちも低く、古式をよく遺している。神官に準ずる神社への奉職者の住居の好例として取り上げて紹介するものである。内庭の方面などいろいろ多少乱れているところもあるが、不明な部分もあり、それらはそのまま図示しておいた。

(2) (資料2) 民俗建築アーカイブ : 写真

佐藤重夫 (昭和46年撮影)

2. 田中家(幸町西表) (写真・図面集リスト No. 14)

- ・建築年代 : 18世紀後半(江戸中期～後期)
 - ・建築形式 : 間口2間7分、奥行7件半
- 木造 厨子2階建、切妻造、棧瓦葺、平入
- アーカイブ資料 :

- ・写真 昭和46年撮影 27枚

(白黒20枚、カラー7枚)

昭和59年撮影 21枚(カラー)

・調査図面 7枚 (昭和62年)

(1) (資料1)「**厳島の民家(第2報)**」日本建築学会中国・九州研究報告第2号 昭和47年3月

佐藤重夫

(Ⅲ)『**田中家**』

この家は最もきれいに古式が残っている代表的な厳島民家というべきもので間口2間7分の家である。屋根は平入で最も古くは(3図)のように、つし2階が表側にのみあったものと思われる。

通り庭(土間)にそって表より「みせ」、「おいえ」、「ざしき」と室が並ぶのが厳島の場合の一般的名称であるが、この田中家の最も古い形の「ざしき」の部分は(3図)に見られるように、後に改変されていて不明である。しかし室があって、その奥に裏庭が連なっていたものである。それが屋根を上げて(2図)の復原図にあるように座敷の上にも2階が出来、納戸のようなものも後補で設けられ(1図)の現状に到っている。しかも土間の外壁の柱は全てもとのままで、胴差を用いないこと、(即ち全部の柱が建て登せ柱)貫でのみ柱が結ばれるに過ぎず、その柱にもとの母屋跡がずっと続いて残っており、創建時の低い建ちの様子がよく解るものである。

暦年については具体的資料に欠けているが、凡そ18世紀後半ほどではないかと想像される。なほ表側の室「みせ」はつし二階の床天井であるが、他にもともと天井がないのが、この厳島の一般的な古式であるようで、やがて「ざしき」の部に天井が先づ設けられたものと考えられる。

3. 熊田家(中之町) (写真・図面集リスト No. 20)

- ・建築年代：19世紀中期(江戸後期～明治)
- ・建築形式：間口3間弱、奥行7間強

木造 厨子2階建、切妻造、棧瓦葺、平入

○アーカイブ資料

- ・写真 5枚(カラー)(昭和59年撮影)
- ・調査図面 5枚(昭和62年)

(1) **熊田家概要**

江戸後期から明治初期の建物とされ、当初は厨子2階建で、後に2階奥側に部屋を造るために屋根を嵩上している。現在は厨子2階部分の屋根も嵩上して2階部屋を高くし、1階付底下の空間を室内化して下屋に改造されている。内部は宮島独特の吹き抜け空間となっている「オウエ」がある。2階への階段はオウエと奥の縁側の2ヶ所に設けられている。

「民俗建築アーカイブ」の写真・図面をご希望の方は下記へ申し込んで下さい。無料で提供します。

民俗建築アーカイブ⑩執筆担当 河村明植

meishoku_kawamura

<myo_yo_kawamura@ybb.ne.jp>